

わくわくドキドキならはらてくてく

NO. 26 2026.3.12



なら原っ子「昨日は、モンタ博士が来てくれたね。そして、みんなで『タネ飛ばし』をやって、
とっても楽しかったね。上の写真は、みんなでタネを作っているところだね。」

なら原っ子「そうだったね。写真の右はしには、
ウッチーもいるよね。何だかむずかし
そうな顔をして作っているよ（笑）。」

なら原っ子「そのとおりだね。ところで、昨日は、
モンタ博士が作ってくれた、『タネ
模型づくりシート』を使ったんだね。」

なら原っ子「まず、本物のタネを観察したんだ。」

なら原っ子「本物って、迫力あるよね。ラワンの

タネを投げたら、クルクルと回って、とってもおもしろかったね。」

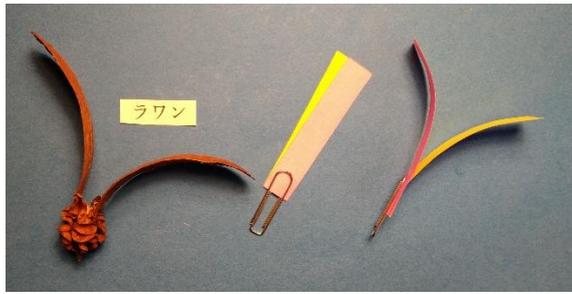
なら原っ子「ワランって、日本には無いタネとか言っていたね。ネットで買ってくれたそうだよ。」

なら原っ子「本物を見て遊んでから、模型のタネを作ったよね。ハサミで切ってクリップつけるだ
けだったから、簡単にできたね。『タネ模型づくりシート』は優れものだよね。」

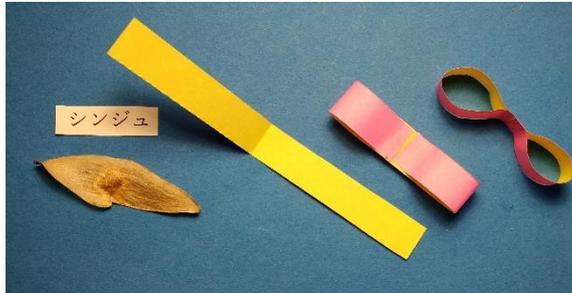
モンタ博士「そんなことを言ってくると、涙が出るくらい嬉しいなあ。次ページを見てね！」



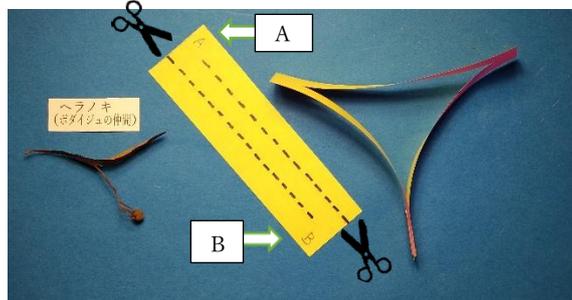
タネ模型シート 2 (ラワン・シンジュ・ヘラノキ [ボダイジュの仲間]) …写真をよく見て作ろう!



上の四角をきり、まん中でおり (少しずらすのがポイント)、小さなクリップをつけます。いろいろな長さやはば、すきな色をぬってもいいね。よくとぶようにいろいろやってみよう!



上の四角をきってからまん中でおり、はじっこにのりをつけて、まん中ではりつければできあがり! どんなとびかたをするかな? いろいろなとばし方でやってみましょう!



上の四角をきってから、点線 (てんせん) をハサミできり、A と B をつけて小さなクリップでとめて、とばしてみよう!

なら原っ子「このシートがあれば、いつでも何度でも遊べるよね。」

なら原っ子「モンタ博士にお願いすれば、たくさんもらえるのかな。たくさんほしいなあ。」

モンタ博士「これをそのまま印刷してもいいし、今、モンタ博士がやっているお仕事でも紹介するね。このおたよりの最後にくわしく書くから、見てね!」



なら原っ子「上の写真の左が本物で、右は、みんなで作ったタネの模型だよ。」

なら原っ子「本物を見ながらやったから、とても楽しかったし、思っていたよりもよく飛んだね。」

モンタ博士「よかったよかった。みんなは一生懸命に作ったね。では、その様子を見てみよう。」



なら原っ子「みんなで一緒にやるって、とっても
楽しいよね。」

なら原っ子「そうそう。そのとおり。」

なら原っ子「1人でやるよりも、盛り上がるしね。」

なら原っ子「そうそう。そのとおり。」

なら原っ子「うまくできない時もあったけど、その時
には、友達が優しく教えてくれたしね。」

なら原っ子「そうそう。そのとおり。」

なら原っ子「それから、先生たちも一緒に手伝って
くれたので、とても助かりました。」

モンタ博士「そうそう。そのとおり。いつも思うんだ
けど、モンタ博士が行った時には、いつも
一緒にやってくれて本当に嬉しいです。

ありがとうございます。心より感謝いたします。今後もよろしくお願いします。」



なら原っ子「右の写真は、なんだろうなあ。」

モンタ博士「これは、シンジュ（ニワウルシ：ウルシの仲間ではありません）という植物のタネの模型を作って、これから飛ばすところだね。」

なら原っ子「とってもおもしろい飛び方をしたよね。」

モンタ博士「そうだね。いろいろな飛び方があるというのが、また楽しくおもしろいね。」

なら原っ子「あれ？右の写真は何だったかな。」

モンタ博士「これはね、ヘラノキというボダイジュの仲間のタネだよ。」

なら原っ子「へえー。初めて聞く名前だなあ。」

モンタ博士「まあ、そんな名前なんか気にすることないよ。それよりも、ちょっと変わった形だろ。植物って、いろいろあるからいいんだね。」

なら原っ子「あれ、右の写真は、作ったタネを飛ばしているところだ。」

なら原っ子「そうだね。飛ばすのが一番おもしろかったよな。」

なら原っ子「そうそう。みんなで、だれのが一番よく飛ぶのかという競争をしたよね。」

なら原っ子「そうだったね。自分の作ったタネが分かるように、名前とか、マークを書いたんだ。」

なら原っ子「それを全部まとめて、モンタ博士が1・2・3で、飛ばしてくれたね。」

なら原っ子「そうそう。ぼくのが一番最後までくるくとよく飛んだ時は、とても、めちゃくちゃ、すごく、たいへん、すごく嬉しかったなあ。」

なら原っ子「それから、みんなでねっころがったよね。」

なら原っ子「そうそう。下から見るのも楽しかったしおもしろかった。」

なら原っ子「落ちるのを見るのも、楽しくいいもんだったよね。」

モンタ博士「なるほどね。今度、モンタ博士もやってみるね。」

なら原っ子「ともかく、みんなで、ワイワイガヤガヤとやりながらだったから、あっという間に終わっちゃったね。」





なら原っ子「今日は、いろいろなタネの模型を作って、飛ばして、遊んで、本当に楽しかったな。」

モンタ博士「そうか、そうか、とっても嬉しいよ。これからもいろいろと工夫してやってごらん。」

なら原っ子「え！工夫する？どういうことですか。」

モンタ博士「今日は、モンタ博士が用意した物でやったでしょ。次からは自分でやってごらん。」

なら原っ子「え！自分でやる？どういうことですか。」

モンタ博士「つまりね、自分でいろいろな大きさの紙でやったり、形を変えたり、おもりをクリップ以外のものでもやったり、いろいろと試したりするとおもしろいと思うよ。」

なら原っ子「紙ではなくて、プラスチック板とか、和紙とかでやるとどうなるのかな。」

なら原っ子「ものすごく大きいタネにしても楽しいかもね。」

モンタ博士「そうだよ、そうだよ。いろいろとチャレンジすることが大切なのさ。ということで、今日はこれでおしまい。また来るね。先生たちも手伝ってくれて、どうもありがとうございました。心より感謝いたします。バイバイ！」

※タネ模型シート2について

「小学館 森田弘文」で検索して⇒「モンタ先生の自然はともだち」に進んでください。連載中で現在34編がアップ済ですが、2025年11月30日発信のNO.29を見てね！もちろん無料です。